
図画工作・美術分科会

I 研究のあゆみ

- | | | |
|-----------|---|-----------|
| 4月20日(木) | 2023年度名教組教研オリエンテーション
(2023年度名教組教育研究活動の進め方) | 【教育館】 |
| 5月2日(火) | 発表テーマ報告・集約 | |
| 5月下旬～6月下旬 | 研究計画の検討 全体での会は開かなかったものの、個別に指導 | |
| 6月30日(金) | 研究内容の検討
(第2次実践の検討と研究のまとめ方) | 【桜山中】 |
| 8月23日(水) | レポートの検討 | 【菊住小】 |
| | 市集会発表内容の検討(リハーサル) | 【菊住小】 |
| 9月16日(土) | 第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会 | 【ウインクあいち】 |

II 研究協議の概略

図画工作・美術分科会では、「探究し、追求し続ける造形活動」をテーマに実践・検討を進めてきました。子どもたちが試行錯誤し、納得のいく表現を見付けることができるように、題材を考えたり、手立てを工夫したりして、「自ら考え、表現すること」「粘り強く表現を探究すること」「仲間とのつながりや対話を通して鑑賞すること」「生活や社会に目を向け、その中で造形的な視点をもつこと」を追求する教育実践が報告されました。

すべての実践者が図画工作・美術の実践を通して「こんな子どもを育てたい」「こんな資質・能力を育みたい」という明確なゴールをもちながら、実践を進めることができました。市教研の発表では、表現活動に夢中になっている子どもたちの姿や、思いのこもった作品がたくさん報告されました。

III 今後に残された課題

- 昨年度の課題であった個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に迫る実践も多くあった。しかし、協議や意見交換を通して、「具体的に授業のどの部分が個別最適といえるのか」「児童生徒のどのような姿をもって協働的だと言えるのか」などということについては、捉え方の差異や不明瞭な部分が大いことが明らかになった。今後さらに実践が重ねられることによってその点が整理されていくことが期待できる。また、授業改善の視点を持ち続け、魅力的な図画工作・美術の実践に取り組んでほしい。
- ICT(タブレットPC)の活用については、昨年さらに定着しつつある。しかし、単に活用するのではなく、教科の特性や本質に迫る有効的な活用をしていく必要がある。